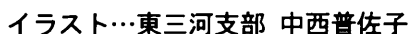


愛知県自然観察指導員連絡協議会 2008.1



講習会報告P2
新入会員紹介P3
研修レポート	
新しい一歩の踏み出し方	山田佐智子.....p4、P5
新指導員歓迎会&交流会	事務局・編集.....P6
バッタ・カメムシ研修	大谷敏和.....P7
ふるさと親子自然観察会(尾張)	山口健.....P8
支部だより 親子ふれあい自然塾	滝田久憲.....P9
観察会あれこれ 知多の海岸生物「アメフラシ」	中井康夫.....p10
理事会報告P11
事務局・編集部だよりp12

自然観察指導員講習会

去る 11 月に愛知県下で開催の第 409 回 NACS-J 自然観察指導員講習会に、当協会から講師派遣などで協力しましたので、そのようすを紹介します。

(これは降幡光宏さんが知多支部(知多自然観察会)の Web ページに掲載されているものから、了解を得て転載したものです。)

【日 時】 2007 年 11 月 9 日(金)～11 日(日) 2 泊 3 日

【場 所】 岡崎市営国民宿舎桑谷山荘

【天 気】 9 日晴れ、10 日曇り、11 日雨のち曇り

【参加者】 60 名+スタッフ

【内 容】

自然観察指導員の養成講習会は自然観察会を開き、自然を自ら守り、自然を守る仲間をつくるボランティアリーダーを要請する目的で開催されました。愛知県での開催は、今回で 16 回目の開催だと思います。「自然観察指導員講習会」は人気のある講習会で応募者が多かったので抽選で受講者を決めたそうです。講習を受けた人は愛知県内 54 名、県外 6 名でした。

この講習会は日本自然保護協会が実施しているもので、講習会修了者は“自然観察指導員”の資格が得られます。

講習会の目的は、単に生き物の名前を覚えるというような内容ではありません。まず、マクロで自然をながめて、自然のしくみを知ること。そのためには五感を最大限働かせて、自然を観察すること。また、自然の偉大さ、大切さを知ること。そして祖先から預かったこの自然を守って子孫に引き継ぐことの大切さを理解・習得することを目的としています。



▲野外で森の見方を受講中

——— 講習会受講後、協会に加入されたみなさん(敬称略) ———

【名古屋支部】

足立邦彦(昭和区)、久村三重子(名東区)、小谷貢(緑区)、古田雅子(南区)
三宅正男(昭和区)、山田高(名東区)、横井進(天白区)、吉武賢慧(緑区)
山田佐智子(緑区)、皆川真千(千種区)

【尾張支部】

大石眞郷(尾張旭市)、橋本保(小牧市)、若山聡(愛西市)

【知多支部】

今西美根子(大府市)、大野耕也(知多市)、門脇重弘(大府市)、蔦谷ふみ子(知多市)
山田公子(東浦町)、吉房瞳(知多市)

次ページ p3 に続く ⇒

新入会員を紹介します！

協議会に加入された新指導員の複数の方々に、下記のアンケートを送付しました。そのうちの2名の会員から回答がありましたので、掲載します。

- ① 講習会を受講して感じたこと・思ったことはどんなことでしょうか。
- ② 指導員登録後に何か活動をしましたか。

活動された方は、活動中にどんなことを感じましたか？

- ③ 自然観察指導員として平成20年の抱負

▼大石 眞郷さん



- ①期待と緊張で参加した講習会。野外実習、室内講義も含めて今までに味わったことのない不思議な魅力に引き込まれました。初心に帰って基本を学習し、活動していきたいと思います。
- ②尾張自然観察会 観察会参加 2回（森林公園、小幡緑地）
森林公園 自然観察団体ガイド 1回、花めぐりガイド 1回
県緑化センター 自然観察ガイド 2回
- ③森林公園のガイドボランティア活動（花めぐり、団体の自然観察）、尾張自然観察会の各観察会に参加、研修会に参加します。

皆川 真千さん（名古屋支部）



- ①自然観察とは、五感を使うこと。
小学生レベルの知識しかない私にとって、光が見えた思いでした。
- ②アサギマダラの報告会のサポートをしました。興味を持ってくださる方が少しずつ増えている様で、嬉しく思いました。
- ③引き続き、アサギマダラのマーキングをしていきたいです。今年は範囲を広げ、1頭でも多く捕獲し、再捕獲されればと思っています。

※アンケートを受け取った方で、まだ回答を送信されていない方は、今回掲載の同期メンバーの回答を参考に送付ください。お待ちしております。

----- 講習会受講後、協議会に加入されたみなさん(敬称略) -----

【西三河支部】

今泉晴夫（岡崎市）、岩月秀範（豊田市）、尾崎忠雄（西尾市）、河江喜久代（岡崎市）、谷口隆（豊田市）、中根幸司（西尾市）、三井美沙子（豊田市）、山口信夫（西尾市）、山本博美（豊田市）、湧川末雄（西尾市）

【東三河支部】

小田桐弘和（御津町）

【奥三河支部】

田實健一（新城市）、【所属支部未定】池藤栄（瀬戸市）、廣瀬千明（稲沢市）

研修レポート 新しい一歩の踏み出し方

去る 12 月 24 日、中京大学文化市民会館にて今井信五氏（NACS-J 講師）をお招きして私の「新しい一歩の踏み出し方」について講演していただきました。当日のお話を新メンバー、山田佐智子さんのレポートで会員みなさんに紹介いたします。（参加者 37 名）

■講演要旨

第二步目の踏み出し方

日本自然保護協会の自然観察指導員も 2 万人以上が育成されている。私は 1986 年に 5000 番台で指導員になった。

講演テーマの「新しい一歩」は皆さんすでに講習会の 5 分間観察会を実施しているので踏み出されている。今日はその第一歩に次ぐ第二步目の踏み出し方を語りたい。

日本自然保護協会の考え方は 20 周年を機にがらりと変わった。新テキストを再読してほしい。「自然観察から始まる自然保護」というスローガンのもと行動することを求めている。いつでもどこでも 1 人でもできる自然観察を 2 人以上で行い自然観察会をしてくださいと言ってる。誰かと分かち合うことで知ったこと、わかったこと、考えたことを地域で活かし、問題解決のために行動することを求めている。

具体的な観察会のアイデア事例紹介

- ・色見本＝大日本インキの色見本帖は重宝。
日本は植物名だがフランスでは食べ物で色を表現するのが面白い。観察会参加者が色について知見を得たことから、その後の職業選択にまで影響を与えたこともある。
- ・額縁＝小道具を実際に活用して注目させ工夫をした。風景から観察対象を切り取りじっくり向き合うことができる。
- ・詩＝詩集を活用し生き物や植物の気持ちを感じ取ったり表現しあったりできる。
- ・スケッチ＝講習で学んだとおり。
- ・わら＝加工に向くわらを調達できますか？事前準備は大丈夫ですか？少なくとも帰り道でばいと捨てられるような作品は作らないでほしい。

レポート作成 名古屋支部：山田 佐智子



▲講師：今井 信五氏

- ・アート＝ドングリの標本や 1 本の木から生まれたたくさんの葉を美しく芸術的に見せる技も持ってください。熱式のラミネートでは標本にならないのでカラーコピーやスキャナーが活躍する。
- ・伝統＝100 年、200 年と生き残ってきたものはその都度時代に合わせて変化しながら続いている。例えば里山文化は再現することだけが目的ではなく今ある暮らしと結びつけて関係を育ててほしい。
- ・注目されるつかみ＝河童の着ぐるみで登場したりキュウリをくわえたりで参加者の注目を集め興味深く演出する工夫も大事。
- ・タウンウォッチング＝現在の姿になるまでのいきさつや地名の由来など現場での手がかりとなるものと結びつけて発見したり考えたりできる。現場ならではの魅力がいっぱい。
- ・インタビュー＝全てを指導員が解説する必要はない。地元住民ならではの情報や考えをうまく聞きだすとい。また隠れ専門家が一般参加者の中に紛れ込んでいるので参加者からの情報をうまく引き出す。
- ・絵本＝司書資格をもつ僧侶はよく絵本を上手に活用している。絵本は子ども専用では

なく多様な使い方が可能。外国の本なら本来の訳を伝えることで感動して泣かれた事もあった。

・まとめ

時間軸の発想や人文科学的な発想で豊かな観察会になる。生き方にインパクトを与えたり今ある暮らしと結びつけて関係を考えられるような観察会も可能。そうすればいつの間にか地域限定の専門家(トコロジスト)になっているはず。行動は3段階設定(長期目標、中期目標、短期目標)で考えればよい。問題解決という目的のために手段(調査)があるので調査活動を目的化しないほしい。

その後複数会員からの質問に、丁寧な回答をいただき終了。

■紹介された参考図書

エリックカール 「はらぺこあおむし」

工藤直子 「のはらうた」

シルバースタイン 「大きな木」

※但し本来は「大きな心を持った木」と訳すべき題名

■(財)日本自然保護協会より



本間慶子さん

①自然保護協会のミッションは次の4点です。

- ・なくなりそうな自然を守る
- ・自然を守る仕組みを作る
- ・守った自然をもっとよくする
- ・自然を楽しむ、知ることを守る力にする

②「自然保護」刊行500号を記念して「自然の見方が変わる本」が刊行されました。会員割引があるので購入を。

③26年前の会報が見つかったのでプレゼントします。関連記事として「愛知県に自然観察指導員連絡協議会が発足した」ことを報じるものです。今日の記念にしてください。

■1981年発行「自然保護 No.231」に「愛知県自然観察指導員連絡協議会、発足」の記事が掲載されたものです。協議会結成当時の諸先輩の志が伝わってきます。

■愛知県自然観察指導員連絡協議会、発足

昨年、日本自然保護協会の第一八回自然観察指導員講習会が愛知県民の森で開催され、その終了後、県内自然観察指導員の交流を図る必要性を認め、連絡協議会を設置することとし、正式発足までの諸準備を県自然保護課が事務局として三ツ石清会長で推進することになり、万場一致で決定しました。その後、事務局の努力で今年五月三〇日、愛知県森林公園で第一回総会を開催。規約、事業計画・役員を決定し、自然保護思想の普及および自然保護活動の推進に寄与するため、自然観察指導員相互の連絡協調を図るとともに、自然観察指導員活動に必要な基礎知識などを研修することを目的として正式に発足しました。総会終了後、第一回研修会を、森林公園展示館と園内アカマツ林を素材として、落合圭次氏(名古屋営林局)を講師に、講義・屋外調査・森林組成表の作成まで、高密度な研修を行いました。第二回の研修は一〇月に予定されている愛知県自然観察指導員講習会に合わせ、同じ大山で行う予定です。今後、県内で指導員に登録された方々を加え、幅広い自然保護活動を推進させたいと思います。

会長 大竹 勝(財)日本モンキーセンター 副会長 竹内哲也(知多市立佐布里小学校)幹事 水島富人(県立西尾高等学校)事務局 愛知県林務部自然保護課

(大竹 勝)

1981.8.15

なごやかな雰囲気にもまれて ～新指導員歓迎会 & 交流会～

去る 12 月 24 日 10 時より、協議会主催「新指導員歓迎会&交流会」が開催されました。新人会員の自己紹介を皮切りに旧人(?)たちも、自己紹介及び観察道具の紹介。こだわりのものを 1 品持参した会員もいれば、観察会用のバッグをそのまま持参し、ドラえもののポケットよろしく多数の品々を紹介する会員も見受けられました。図鑑、双眼鏡、ルーペ、袋等や、ケガに備えて救急絆創膏や三角巾用のバンダナ等々も紹介されました。これを持っていれば子どもが寄ってくること間違いなしという代物は、「子どもホイホイ」。ユニークなネーミングと現物に、思わずなるほど!とうなずく会員も。そのポイントは、子どもの目線の高さ(肩かけバッグ、ウエスト・ポーチ等)に、手づくりの木の実のクラフトをジャラジャラと幾つも身につけることだとか。また情報源としての自然観察のメーリングリストの紹介もありました。

会場は、終始和やかな雰囲気にもまれていました。なんといっても、各自持参のマイカップで温かいお茶を飲みお菓子を楽しみながら・・・ですから。

(参加者:新指導員を含み 22 名)



▲各自持ち寄った観察道具の紹介がされた

今井信五講師、 NACS-J 本間慶子さんを囲んで



▲前列中央の今井講師(右から 5 人目)を囲んで、出席者と記念撮影。今井講師の左は松尾会長。

協議会の幕(昨年度作成)を手にするのは V サインの降幡副会長、その左が本間さん。

研修会 =バ ッ タ・カ メ ム シ=

尾張支部 大谷 敏和

日時：平成19年10月28日（土） 10時～12時半

場所：海上駐車場よりサテライト

講師：名古屋昆虫同好会所属 矢崎 充彦氏

矢崎氏は、名古屋昆虫同好会の他日本昆虫学会、日本昆虫分類学会、日本半翅類学会、日本鱗翅学会、日本蛾類学会などでも活躍。現在、愛知県レッドデータブック見直し昆虫部会の部会員として、半翅類の見直し作業を進行中。

カメムシ、バッタの予備知識の講義を受けてから駐車場西の草原で網を振り回しながら昆虫採集をしました。多数飛び跳ねるのは米の害虫であるクモヘリカメムシでした。さわるとくさいにおいを放ちます。におうのの一部ということです。クビキリギスとクサキリを捕獲し、2種を比べての違いを理解することができました。ススキの中でカトリヤンマを見つけることができました。早朝と夕方活発に動き屋は林の中で休むトンボですから昼はめったに出会えません。道路脇に生えているヨモギにはあまり関心を示す者は多くありません。当日この花にそっくりの模様をもつハイロセダカモクメの幼虫がいることを教えてもらいました。

海上の里にある田んぼの近くでトゲヒシバッタを見ることができました。いつも湿り気のある田んぼのような環境を好みますからどこでも見られるバッタではないそうです。今日は、昆虫の食べ物や生活場所を通して環境の変化を理解することができた研修会でした。

この日確認できた昆虫は、クモヘリカメムシ、クサギカメムシ、オオカマキリ、クダマキモドキ、コノシメトンボ、マユタテアカネ、クビキリギス、ササキリ、セサウジツユムシ、クルマバッタモドキ、トゲヒシバッタ、ハイロセダカモクメ、イカリモンガ、コアオハナムグリ、アワムシでした。

当初予定していた講師の入院により、矢崎先生には急なお願いにもかかわらず快く引き受けて頂きました。ありがとうございました。



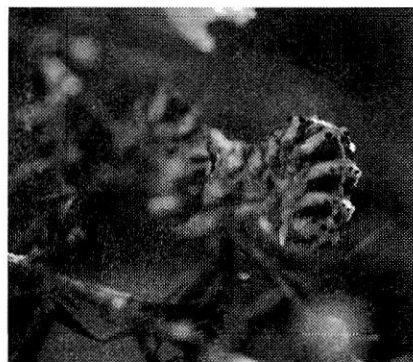
▲当日の研修の様子



▲トゲヒシバッタ



▲クモヘリカメムシ



▲ハイロセダカモクメ
(ヨモギの花にそっくりの模様)

ふるさと親子自然観察会（尾張支部）

海上の森で秋の虫たちの観察

尾張支部 山口 健

日時：平成19年10月28日（日）

9:30～14:00

天気：晴れ

場所：海上の森（瀬戸市）

参加者：大人4名 小人2名 計6名

指導員：5名（大島・加藤・辻・長尾・山口）

この日は前日が雨だったので天気が心配でしたが、当日は見事な晴天に恵まれました。

参加者に関してはHPや新聞の案内を通じて何人か問合せがありましたが、結局当日の参加者は一組の親子と一組の夫婦、そして女性一人でした。

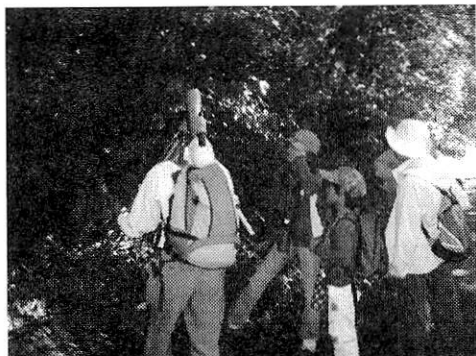
雨上がりの朝だけに、抜けるような青空がまぶしく、森の樹木も草花も格段に活き活きとしているようにみえました。ツタウルシやハゼの真っ赤な葉は空の青さとコントラストを織りなしてよく映えていました。

海上の森は多様な自然環境に恵まれているので、観察会というとその季節にしか見られない植物や野鳥などに目が行きがちです。しかし今回の観察会をはじめての人に自然に親しんでもらおうという主旨なので、できるだけ身近な題材を選んでみました。ウリカエデやイタドリなどの実を観察して、その造形の意外な面白さや種子の飛ばし方などを手に取って観察しました。またガマズミなどの食べられる実を軽く試食してみたり、葉っぱの感触を比べたりなど五感を使っの植物観察をすることができました。秋は多くの植物に実が熟し種子分散をする時期なので、親子で身近な植物と種子分散をする他の生き物とのつながりを学んだり、植物の繁殖の仕組みなど興味深く観察したりするには一番いい季節かもしれません。ふだんはあまり植物に興味を持たない子どもたちも木や草花と触れ合う喜びを知りえたのは良かったと思います。

またカナヘビやトカゲの子どもを見つけたので捕まえました。カナヘビにまぶたがあるのがかわいいという感激やトカゲの尻尾のメタリックブルーの美しさに感動し、子ども達は手の



▲子どもたちが手にしたトカゲ



▲観察会の様子

平に乗せていとおしように写メールに収めていました。長尾指導員がフキバッタを捕まえて、のどちんこを見せてバッタとイナゴの違いを解説しました。ササキリやセスジツユムシなども手に取ってみました。

昼食後、大正池に行くと翅のオレンジが鮮やかなキトンボが枝先に止まっていました。長尾さんがキトンボをネットインして、これも手に取って翅や胴体の鮮やかさを觀賞し、トンボの体の仕組みなども観察しました。

駐車場で解散直後にハラビロカマキリを捕まえたので、水を入れた水槽につけたところ、ハリガネムシがでてきて最後のハイライトとなりました。

観察会の目的は、ひとえにその地域の自然とふれあうことによって自然を好きになることに尽きると思います。今後も多くの人が自然とふれあうきっかけをつくる観察会が、定期的にできればいいなと思っています。

親子ふれあい自然塾（その２）

名古屋支部 滝田久憲

今年度の「親子ふれあい自然塾」は“起承転結”で言うと“転”に当たります。サブタイトル“水源の森ウォッチング”にあるように、名古屋市内を流れる五つの河川の水源地の森や湿地を訪れ、水がどのようにして作られ、どのような役割を果たしているか、あるいはどのように利用されているかなどを調べました。

今回の調査で対象となった河川は庄内川、矢田川、山崎川、天白川、植田川で、各々の河川の水源地の森や湿地などを訪れました。庄内川編では、4月21日に東谷山を、7月21日に中志段味の才井戸流を訪れ、講師をそれぞれ名古屋支部会員の萩原育男さん、「志段味の自然と歴史に親しむ会」の上林光之さんをお願いしました。東谷山では森の植生が豊かで落葉の層が発達していることから、雨水などの保水能力が高く湧き水が多いことが分りました。その結果、山麓にはいくつもの湿地が形成されました。また中志段味地区では、東谷山からの伏流水に加えて、雨水が地下浸透しやすい農地の割合が大きいことから、地下水量が豊富になり何箇所かの湧き水ポイントが出来ていました。同地区内の油石ではこの湧き水を洗濯や炊事に利用し、水が枯れないようにと水神様を祀っていました。但しこうした地域でも、都市化の進行により水に対する意識が少しずつ変わりつつあるようです。矢田川編では5月19日に大森八竜湿地を訪れ、講師を名古屋支部会員で「水源の森と八竜湿地を守る会」柴田美子さんに依頼しました。八竜湿地では湧き水が作り出す湿地の自然のすばらしさや生物の多様さを実感しました。また外来種のスイレンの除去も含めて、湿地などの自然を維持するためには多くの人手が必要なが分りました。

山崎川編では6月16日に平和公園南部と猫ヶ洞池を訪れ、講師を名古屋支部会員で「なごや東山の森づくりの会」の鬼頭保さんをお願いしました。平和公園南部では、以前谷筋の湧き水を利用した米づくりがなされていました。現在森づくりの会の会員により田んぼが復元され、湿地の管理もなされています。また平和公園を集水域とし、山崎川の水源地ともなっている猫ヶ洞池では、周りのため池とネットワークを作り排水管理を行っており、都市におけるため池の役割などを学習しました。天白川編では水源の一つである日進市の岩藤川の上流域を訪れ、講師を尾張支部会員で「日進岩藤川自然観察会」の鬼頭弘さんをお願いしました。この岩藤川源流部には、希少種の魚が棲んでいたりと、ハッチョウトンボの棲む湿地があつたりで、貴重な自然が残されていますが、最近土砂の採掘業者による自然破壊が行われようとしています。そこでこれを止めようと、市民による土地や立ち木のトラスト運動が展開されています。一度失われたものは二度と戻ってきません。自然と共生できるのは人でありますが、自然を壊すのも人であることを改めて考えさせられました。最終講義となった植田川編では東山公園南部を訪れ、講師を名古屋支部会員の中西倜夫さんと森光宏さんをお願いしました。東山公園には一年を通して水の枯れることのない金明水という湧き水ポイントがあります。それは、東山公園が都心に近いにも関わらず、植生豊かな大きな森があるためでした。しかしこうした森が放置され、樹木の高齢化が一因と考えられるカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が発生していました。自然と人間との関係を改めて考えさせられました。

ところで、今回の講座で訪れた多くの場所で、市民による森や湿地などの保全活動が行われていました。それは、こうした自然の多くは放置しておくとも生物の多様性が損なわれるからです。都市の森のカシノナガキクイムシによる被害はその警鐘を鳴らしています。そして、こうした活動が根柢を持って継続的に行われるためには、今後“人づくり”が課題となります。

もしも、来年度にこの親子ふれあい自然塾を開講する機会があれば、“起承転結”の“結”としてこの“人づくり”をテーマにした企画を実施したいと考えています。

知多の海岸生物 1 アメフラシ

知多支部 中井 康夫



アメフラシは体の表面がぬるぬるしている。だれが両手ですくい上げても、形がくねくねとしていて、その重みでどうかすると落ちそうになる。『H君はアメフラシを気持ち悪がって、なかなかつかもうとしない。採ろうか、採るまいか迷っている。指導員が手本を見せたり、口々に「毒もないし、何もしないよ。」と声をかけたりしていると、バケツを持ってきてやっとその中に入れた。そして…

またほかの2匹も入れて、バケツが満杯になった』 私は、かつて自分もそうであったことを思い出すとともに、アメフラシで満杯になったバケツを見てほほえましく思った。

はじめに、アメフラシがどんな生きものか。すでにご存知の方も多いと思うが、アメフラシは後鰓類（こうさいるい）に属している。簡単に言うなら『殻を持った巻貝の仲間』と言える。よく耳にするウミウシも後鰓類に属しますが殻をもたないものが圧倒的に多い。

本来、殻は軟体の体を守るべきものだが、その必要がなくなってほとんど退化してしまって、背中に薄い葉片状の殻を残すのみとなっている。さわってみるとベコベコする。刺激によってアメフラシは紫汁、アマクサアメフラシは白汁を出すので、体験するといいい。さらに、「こんにちは」の挨拶代わりに毎回さわっていると、仲良くなり『こんな生きものだ』ということがなんとなく、しかしかなり正確に解かってくる。

なぜ、アメフラシは生存競争の激しい海の中で殻を退化できたのか。それは『食べてもまずい体』に原因がある。とてつもなくまずければ、ほとんど食べられないことがない。

アメフラシの体は海の中にいても付着物が付かない抗菌ボディだ。それはエサからきている。海の中でも動けない海藻とかカイメンとかホヤなどは、逃げられないかわりに敵から防御するための化学物質をもっていて、アメフラシはそれを利用している。そのことは、森の木の葉の中に含まれる成分と虫の関係にも通じるものがある。

アメフラシはアナオオサなどの海藻を食べるベジタブル食者であり、えさになるアナオオサは同時に卵塊に有害なセンチュウ類がわからないように殺菌作用もしている。ウミウシは肉食者で、カイメンやホヤなどのほか刺胞動物や他のウミウシを食べ、敵への防御や攻撃（刺胞を自分のものにして）をしている。

アメフラシの体の表面についているぬるぬるは、体を乾燥から守ったり、摩擦を減らし滑りやすくしたりすることで、波に流されやすい身体になっている。実際、流れのあるところでは、海藻や岩からはがされると、体を丸め運ばれて行ってしまう。また、アメフラシがいくつも連なった光景を目にするとと思うが、これは後鰓類のほとんどが雌雄同体であるということである。つまり、他の個体とのかかわりにおいて、同時に雌雄の役割を果たせるしくみをもっている。このように、海の生きものは多様で面白い。

第3回理事会

12/1 (土) 13:30~

於 中京大学市民文化会館

出席者 松尾、鬼頭 降幡、近藤、齋竹、
永田、布目、堀田、吉田、吉川、
樋口、梶野、三田、岩崎

進行：鬼頭 記録：近藤

議題

1. 総会議案内定（次年度事業について）

■ 機関紙担当（齋竹）

①08 年度の計画：年 6 回偶数月発行（12 ページ構成）。次年度予算、今年度同等。

②編集体制の整備として、各支部で協議会ニュースの通信員を選任することを承認。

役割：支部行事の協議会ニュースへの掲載の調整（支部内の原稿執筆者の割振りと進行管理）。

趣旨：新たな人材導入による発想転換でマンネリ化防止。

③ML でのアンケート結果報告

アンケートの回答は ML 登録者の一部少数の会員であるため参考にとどめる。

■ HP 担当（永田）

継続及び更新。次年度予算 2 万。

■ 調査担当（吉田）

スプリングガイ（淡水巻貝）を調査対象とする。
調査表は、安価な方法で作成予定。

■ 保険担当（布目）本年同様に契約予定。
今年度分については 4 月末までに清算が必要なので早めの報告を要す。

■ 保全担当（吉川）：事業提案が困難

■ 企画担当（堀田）：次回提案

■ 観察会担当（山田）欠席

→ 問合せ（事務局）次回提案

■ 研修担当（大谷）欠席

→ 問合せ（事務局）次回提案

2. 12/24 新人に関する事業について

①午前：新指導員歓迎会

松尾、鬼頭（受付）降幡（写真）、近藤（全体）、齋竹、永田、吉川、三田、その他

当日出席の理事と会員で、会場設定他を協力して行う。

②午後：研修 → 受付・記録・その他担当

今井さん：パワーポイントにて講演
プロジェクター及びスクリーンの準備
→ 知多支部会員に確認（降幡）。

3. あいち自然ネット（あいち自然環境団体・施設連絡協議会）設立総会について
愛知県自然観察指導員連絡協議会として加入、出席を承認。

12/22 (土) は、保全担当理事（吉川）が出席することを承認。
出席連絡→事務局対応（近藤）

4. 愛称について

以下 4 件の提案を「協議会ニュース」に掲載。また総会の議案とすることを承認

愛知自然観察会連絡会

愛知県自然観察協議会

愛知県自然観察会

愛知自然観察会

5. ①自然観察指導員講習会について

会員協力で無事終了し、33 名が協議会加入

②協議会と支部との係わりについての不明の声あり（次回の検討課題）

6. NPO 化について

次回の理事会にて賛否を問うことを承認。

7. 観察会の保険について

①単発の観察会は可能。

②定例観察会は年度始めに届けた観察会のみとする。

次回 第4回理事会

日時 2/16 (土) 13:30~

場所 愛知県勤労会館 鶴舞プラザ

議題 1. 総会議案確定（次年度事業・決算報告・予算案など）

2. 20 年度理事について

3. NPO 化について

■ 会員の情報について

新会員紹介～活躍を期待します～

■ 竹田義彦さん(名古屋支部)

〒463-0023

名古屋市守山区今尻町 217

(052)798-4245

■ 和田勲さん(尾張支部)

〒503-0854

岐阜県大垣市築捨町 3 丁目 372 番地

(0584) 89-2431



■ 協議会の愛称について

「愛知県自然観察指導員連絡協議会」の名称をより理解しやすい名称にすることが、平成 19 年度の総会で承認され、「協議会ニュース」No.112 で公募の案内をいたしました。

その結果いくつか応募があり、理事会で①愛知自然観察会連絡会、②愛知県自然観察協議会、③愛知県自然観察会、④愛知自然観察会を候補案として、総会に諮って決めることとなりました。(P11 の理事会報告参照)

これらの案について意見のある方は事務局まで連絡ください。総会で討議する時に紹介いたします。

＝ 平成 20 年度総会 ＝
3 月 20 日(春分の日・木)開催
於 中京大学文化市民会館

(旧 名古屋市民会館)

平成 20 年度総会を見出しの通り開催します。当日は午前に交流会を、午後に総会及び講演会を予定しています。愛知教育大学教授 大和田道雄先生をお招きし、「地球温暖化」をテーマにお話いただきます。

会場は、JR・名鉄・地下鉄・市バス等いずれからも交通の便のよい「金山」駅です。昨秋指導員講習会を受講し加入された新指導員のみなさん、会員が一同に集う場です。是非出席ください。

次の「協議会ニュース」No.117 にて詳細をお知らせしますので、どうぞお楽しみに！

■ 連絡先などの変更は早めに

転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更は、速やかに事務局までご連絡ください。

メール便は、郵便と違い移転先への転送が不可能です。くれぐれもご注意ください。

編集後記

■ あけましておめでとうございます。協議会ニュースの 1 月号(No.116)をお届けします。今回の号に昨年末の新指導員歓迎会&交流会、研修会を掲載のため発行を少々遅らせましたことを、了承ください。■ 昔では気候変動の影響ではないかと思われる異常な自然現象が多々見られ、新聞でも環境問題が大きく扱われています。また、生物多様性条約の締約国会議(COP10)の名古屋誘致など、自然保護に追い風が吹いています。■ 折しも昨年 11 月の講習会を受け、当協議会にも新たなメンバーが加わりました。こうした人たちと共に、協議会が自然保護にいっそうの力を発揮できるようにしたいですね。■ これを単なる初夢で終わらせてしまうかどうかは、会員一人ひとりの努力によると思います。(齋竹)

編集スタッフ

岩沙 雅代

近藤 記巳子

酒井 勇治

山口 健

岡田 雅子

齋竹 善行

永田 孝

横井 邦子

協議会ニュース編集部

〒482-0007

岩倉市大山寺元町 12-3

齋竹 善行

メール: BZA03620.nifty.ne.jp

■ 愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 名古屋市南区鳥栖 2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子

Tel/Fax 052-822-7460

■ Web Page: <http://naichi.net/>

■ 郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)